



理事長  
柳田 吉亮

# 「あっ」という間 無我夢中の 1年間でした。

ある程度は覚悟していたものの「艱難辛苦を乗り越えて」が、紛れもない現実として、次から次へとやってきました。「指定管理者」という新しい法に基づき「エクラ」をNPO法人という民間団体が「管理運営」することは、確かに画期的なことです。しかし、前例のないことを実行する大変さは、想像を遙かに超えていました。

「管理運営」と言っても「管理」と「運営」には、大きな違いがあります。「管理」とは、「エクラ」が建物として正常に機能するように「維持」することであり、貸館や設備の維持点検、清掃などを行うことです。しかも、出来るだけ外注せず、職員での対応を求められました。喫茶コーナーまで直営です。

果たして清掃に何人必要なのか？ 警備は？ 受付窓口の対応はどうするのか？ 電気代やガス代はいくらかかるのか？ 職員の採用や研修はどうするのか？ おいしいコーヒーの淹れ方は？ 等々。これだけでも大変なことでした。しかも新しい建物だから過去のデータがなく、知恵をめぐらしながら手探りで始めるしかありませんでした。

「運営」とは、ハードとしての「エクラ」をいかなるソフト・手法をもって市民活動の拠点として活性化させるかということです。グランドオープンのセレモニーから始まり、各種コンサート、演芸、演劇、講演会、等々のホールイベント。パーティーや研修会、見学会、展示会。ハートフルサロンでは、結婚式までプロデュースしました。

また日常的なこととして、託児室のサポーターや視察対応の案内ガイド、ホールの裏方やフロントスタッフ、周辺ガーデンの維持管理、等々、ボランティアを主体とした協力スタッフの育成も必要でした。

私たちの1年間は、指定管理者としてだけではありませんでした。市民活動に関する行政のアウトソーシングの受け皿としても求め

られました。「小野市男女共同参画センター」の受託、「小野市国際交流協会」と「小野まつり」の事務局、等々。今まで行政が、直接担当をしていた業務を受託しました。

冷静に振り返れば、ここまで来たのが不思議なくらい、気が速くなるほど膨大な業務量です。しかも、これらを担当する職員は、そのほとんどが、新規採用の契約職員とパートタイマーでした。にもかかわらず、よく頑張ってくれました。今も事務室の壁にスローガンが貼ってあります。「市民が顧客のサービス業であることを自覚し、来館者の満足度向上に努めよう」と「参画と協働の真意を理解し、市民活動自立活性化のエキスパートとなろう」の二つです。今もこの目標に向かって研鑽を続けてくれています。



また職員以上に忘れてはならないのが、会員や人材バンク登録者を初めとするボランティアの皆さんです。プロジェクト毎に編成された委員会を通じて、昼夜を問わず、知恵を出し、汗を流してくださいました。正しく東奔西走の活躍で「アルシェ」を支えてくださったのです。そこには、一般的にボランティアの欠点として言われる「わがままで無責任」とはまったく無縁の、絶大な信頼感が存在していました。

この1年間、いや、準備期間を含めた3年余りの月日を振り返ると、その時々「アルシェ」を支えてくださったすべての人々に、ただただ感謝の言葉を申し上げることしか思い浮かびません。ほんとうにありがとうございました。そして「エクラ」オープン1周年を機に、指定管理者として、アウトソーシングの受け皿として、更なる向上を目指すことを改めてお誓いするものです。

しかしながら、私たちには、次なるステップが待っています。私たち本来の設立目的である、NPO中間支援です。「エクラ」の指定管理者であり、行政のアウトソーシングを受けるのも、NPO中間支援のために有効な手段だからです。いよいよ私たちは、中間支援組織としての技量を問われる段階に突入します。手段の成功におごることなく、今こそ、本来の目的に立ち返り、真摯に取り組まなくてはなりません。そのためにも皆さんの更なるパワーの結集が必要です。そして「エクラ」を拠点として、広域にわたり活動の輪を広げていきましょう。市民活動に行政の垣根は不要です。私たちは「北播磨市民活動支援センター」です。

## これまでのアルシェレター いろいろな方が表紙を飾られました。



### 広報委員長より



広報委員長  
後藤 友栄

本年3月20日で、小野市うるおい交流館エクラが開館して1周年となりました。これを記念して、NPO法人北播磨市民活動支援センター(ksks Arche)の広報誌、アルシェレターの特別号を発刊いたすことができました。これも、ご協力いただいたみなさんのおかげと、広報委員一同感謝しております。

これまで2004年の創刊号から数えて、計6つのアルシェレターを発刊してまいりました。毎号、多くの方に原稿や写真の協力をいただきながら何とかやってこれた次第です。今回の特別号は、「ksks Archeの活動を知っていただきたい!」「ksks Archeにはこんなにたくさんの方が関わっていること、そして支えられていることを皆さんに知っていただきたい!」という思いを込めて制作しました。締め切り間近の原稿依頼に「え〜!?!」と言いながらも締め切りに間に合わせてくださったみなさん。本当にありがとうございました。

広報委員会では、アルシェレターの発刊の他に、様々なイベントのポスター、チラシの作成、写真撮影などを行っています。

イベント時には、出演者の方に大道具搬入口でコンサート前に写真を撮らせていただき、コンサートの間にその写真を支援センター内の機器でA1のポスターに仕上げ、コンサート終了後に出演者の方にサインをいただくということをしています。最初は、ポスターに仕上げる機器が思うように動いてくれず、ポスターが出来上がったときにはすでに出演者の方は帰られた後で、そのポスターを手に新神戸駅まで行き、駅内の機でサインをいただいたこともありました。今までのサイン入りポスターは大会議室前の廊下に掲示しています。是非ご覧になって下さい。

現在では、毎日更新のブログ「アルシェ日誌」も始まっています。ボランティアと事務局一丸となって今後、より一層の充実を図ってまいります。これからも様々な活動をksks Arche広報委員会から発信してまいります。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。